

寺院名鑑 最新版発刊なる

発刊ご挨拶

岐阜県仏教会 会長 橋 正 信

今回、仏教会寺院名鑑が15年振りに改定発刊されることになりました。始めに岐阜県仏教会の歩みとして、昭和42年の全日本仏教徒大会以降の主な事業を掲載させて頂きました。「こころの日ぎふ県民大会」(各5県域にて)「ゲートキーパー・クルー養成講座」「岐阜県出身三人会特別講演『今、問われているこころ』」と、毎年「お経を習いましょう運動」「仏教ぎぶ10万部の発行」「国際親善法要」「中央花まつり」「栄叡大師顕彰法要」が県仏の事業として、継続して行われてまいりました。ご寺院、檀信徒各位のご支援に心から感謝申し上げます。

この度の発刊に当たり、会員諸師のご協力、特に協賛ご寺院、並びに企業各位のご支援に厚く御礼申し上げます。名簿は地域仏教会活動の発展を願って、市・郡・町単位に編集致しましたので、ご利用・ご活用して頂ければ幸甚に存じます。

尚、本名鑑の編集に当たりましては、昨年6月より1年余りに亘り、仏教会事務局長を中心に、各市郡仏教会長、出版委員諸師のご協力・ご尽力をいただき、ここに無事出版できますことに深甚なる感謝の意を表します。

合 掌



発行 平成 28 年 7 月 1 日
 岐阜県仏教会事務局
 岐阜市西野町3丁目1番地
 岐阜西別院内 Tel 266-7803
 編集 出版委員会
 1部送料共 80円

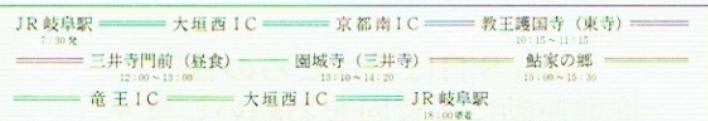
平成 28 年度 岐阜県仏教会、檀信徒会、栄叡大師奉賛会、会員の皆様

秋の本山めぐり研修旅行

私ども仏教会、檀信徒会では国際親善法要と国内各宗本山めぐりを隔年につとめております。今年は京都の弘法大師空海ゆかりの古刹で世界遺産である東寺と大津市の琵琶湖を見下ろす大寺で近江八景の一つである「三井の晚鐘」がある三井寺を参拝する秋の研修旅行を下記日程で開催いたします。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、一人でも多くご参加下さいませようご案内申し上げます。



- 参拝箇所 教王護国寺(東寺)・園城寺(三井寺)
- 出発日時 平成 28 年 10 月 12 日(水)(日帰り)午前 7 時 30 分 出発(7 時 20 分 集合) 観光バス乗場(JR 岐阜駅北口西側(十六プラザ)前)
- 会 費 10,000 円(拝観料、昼食代、貸切バス代、通行料含む) (栄叡大師奉賛会・法人会員はご招待です)
- 募集人員 200 名(申込順にて定員になり次第、〆切らせていただきます。)
- 行 程 10 月 12 日



- 申込方法及び締切日 各地区仏教会・檀信徒会の役員の方、又は岐阜県仏教会事務局へ参加申込書に会費 10,000 円を添えて 9 月 12 日(月)までにお申込み下さい。
- お問合わせ先 岐阜市西野町3の1 岐阜西別院 康徳 岐阜県仏教会事務局 電話 058-266-7803 FAX 058-214-4081 (月~金)10:00~16:00まで
- 主 催 岐阜県仏教会・檀信徒会
- 協 賛 栄叡大師奉賛会
- 旅行取扱 名鉄観光サービス(株) 岐阜支店 (担当 安田章男)

「ぎぶ中央花まつり」灌仏会が五月十日に柳ヶ瀬通り、高島屋東広場にて開催されました。当日はあいにくの天気で、金公園で行う予定であった式典・パレードは中止になってしまいました。広場前には花御堂が飾られ、灌仏読経法要が行われました。



各校区寺院・檀信徒代表の方、また通りがかりの方々もお釈迦様を合せて誕生をお祝いしました。

ぎぶ中央 花まつり

第1回 県内珠玉の仏像拝観 研修旅行

奥州藤原秀衡・義経ゆかりの地

白山文化の里



平成二十八年七月二日(土)、第一回岐阜市仏教会主催の県内珠玉の仏像拝観の日帰り研修旅行が行われました。

石徹白虚空蔵菩薩の拝観と白山中居神社、長滝白山神社、長瀧寺を参拝しました。

その後、郡上市大和町にある古今伝授の里フィールドミュージアムにて「いにしえ(古)のみやび(雅)」に浸りました。

石徹白虚空蔵菩薩は国の指定重要文化財で、奥州藤原氏三代の秀衡によって美濃国(現在の岐阜県)石徹白の地にもたらされた銅像の仏像です。

約八百年もの長きにわたって守り継がれ、世に殆ど出ることがなかった藤原秀衡ゆかりの仏像です。

ちなみに藤原秀衡は奥州平泉にて源義経の世話をした武将として知られています。

白山中居神社は、岐阜県郡上市白鳥町石徹白に鎮座する神社です。白山神社の一つであり、白山信仰と関わりが深いようです。

白山信仰の美濃国からの道は、白山中宮長滝寺(現在の長滝白山神社、長瀧寺)から越前国の白山中居神社とおり、白山へと向かっています。

旋風打

▼熊本で大地震が発生し、今もなお避難所などで不自由な暮らしをされている方がたくさんいらっしゃいます。お身体をお大事にして頂きたい。

▼熊本は日本一のスイカの産地である。大地震が起き、スイカの出荷が出来ないなど辛い状況があったが、現在は乗り越えられて出荷されている。

▼スイカは、西瓜と書くように中国の西の砂漠やアフリカサバンナに自生しているものが室町時代に日本に入ってきたようであるが定かではない。

▼子供の頃八百屋さんにスイカを買いに行くと、おじさんが指でトントンはいいて音を聞き「これが甘いよ」と教えてくれたものである。実際に、おじさんの勧めで買ったスイカはとっても甘く、すごいなあと尊敬していたものである。

▼大型スーパーのような大規模店の出現で八百屋さんが町から消えてしまった。

▼大量に安く仕入れ、大量に売る薄利多売の商売の仕方では、小さな小売店では太刀打ちできなかった。

▼お金は投票であると言おう。八百屋さんとお話をしながら買うことは、そのお店の真心や心配りに投票することなのである。

▼現在、安全で手間をかけた野菜を売る小さな八百屋さんが全国に戻りつつある。おじさんが「痛みかけだけでも」って野菜をサーピスしてくれたりしさを覚えている。お金という投票で人を笑顔にしたり、励ます時代が来ていると思う。そんな使い方がしたいものである。

(大安)

